

個人投資家向けIR説明会

コスモエネルギーホールディングス株式会社

(証券コード：5021)

2026年9月15日（火）



自己紹介

代表取締役 常務執行役員

松岡 泰助 *Matsuoka Taisuke*

- 1993年4月 コスモ石油株式会社入社
- 2018年4月 コスモ石油（株）供給部長
- 2021年4月 コスモ石油（株）取締役執行役員
- 2023年4月 コスモエネルギーホールディングス（株）
常務執行役員
- 2024年6月 コスモエネルギーホールディングス（株）
取締役常務執行役員
- 2025年6月 コスモエネルギーホールディングス（株）
代表取締役常務執行役員



出身地

兵庫県

趣味

神社仏閣巡り サウナ

① コスモエネルギーグループについて

② 中長期的な成長戦略

質疑応答

- ① コスモエネルギーグループについて
- ② 中長期的な成長戦略

質疑応答

コスモエネルギーグループ概要

- 「ココロも満タンに」でおなじみのコスモエネルギーグループ
- 1986年、大協石油と丸善石油の合併により誕生し、今年で創立40周年



(2026年3月31日現在)



コスモエネルギーグループ

子会社：47社 / 関連会社：32社 / 連結従業員数6,675名

主なグループ会社

* 持分法適用会社

石油事業（精製・販売）	石油化学事業	石油開発事業	再生可能エネルギー事業	その他／全社（共通）
コスモ石油 コスモ石油マーケティング コスモ石油販売 コスモ石油ルブリカンツ コスモエネルギーソリューションズ ジクシス* キグナス石油* ほか	コスモ松山石油 CMアロマ 丸善石油化学 ほか	コスモエネルギー開発 アブダビ石油 合同石油開発* Cosmo E&P Albahriya Limited ほか	コスモエコパワー CSDソーラー ほか	コスモエンジニアリング コスモトレードアンドサービス ほか

事業概要

- 原油の生産から石油製品・石油化学製品の精製販売、再生可能エネルギー事業など幅広い事業を通じてエネルギーの供給を実施

石油事業 (精製・販売)



- 石油製品の精製
- 国内輸送・販売
- 海上輸送・備蓄
- マイカーリース



石油化学事業



- 石油化学製品の製造・販売
- 機能化学品の製造・販売



石油開発事業



- 原油の開発・調達



再生可能 エネルギー事業



- 風力発電開発・建設
- 太陽光発電所運営
- 蓄電事業(実証段階)



国内3位の供給規模で石油製品を供給

- 千葉・四日市・堺の3つ製油所で安全操業・安定供給
- コスモブランドのサービスステーションを全国で展開。キグナス石油への燃料供給も実施
- カーリース事業や【コスモの公式】アプリを活用したサービスステーションのデジタル化にも取り組む

大都市圏に存在する3製油所体制による安全操業・安定供給



原油処理能力

40.0万バレル/日

四日市製油所

8.6万バレル/日

千葉製油所

21.4万バレル/日

堺製油所

10.0万バレル/日

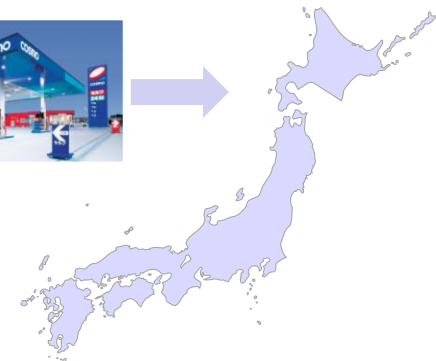
全国にSSを展開・キグナス石油にも燃料を供給



全国展開



燃料供給



カーリース事業やサービスステーションのデジタル化に取り組む



コスモMyカーリース

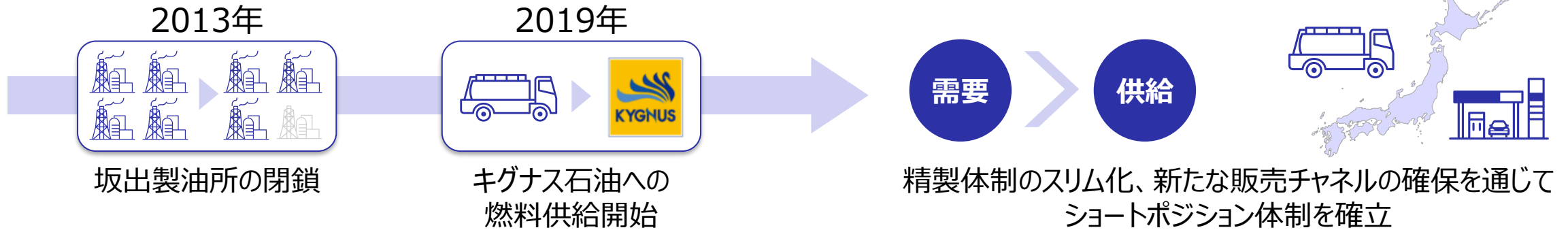


「コスモの公式」
アプリ

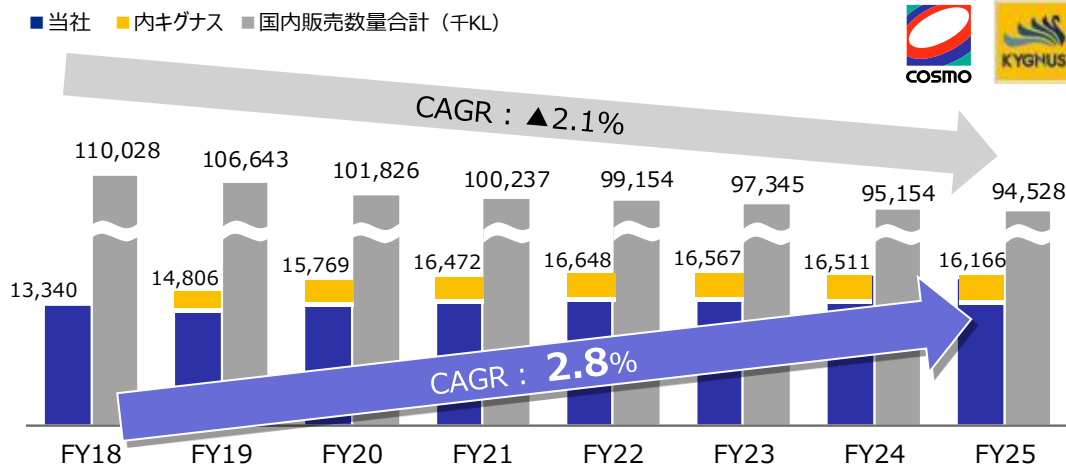


製油所の高稼働が収益の源泉

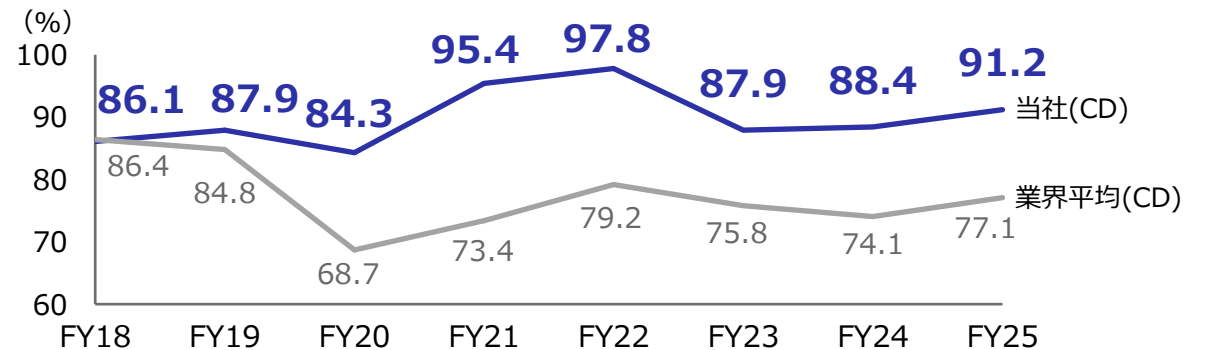
- 業界平均を大きく上回る製油所稼働率の維持により、高い収益力を実現



石油製品需要とコスモ販売数量の推移



製油所高稼働の維持



全国的な需要減少の環境下においても
一貫して業界平均を上回って推移

国内最大級のエチレン生産能力と半導体材料での高い市場シェア

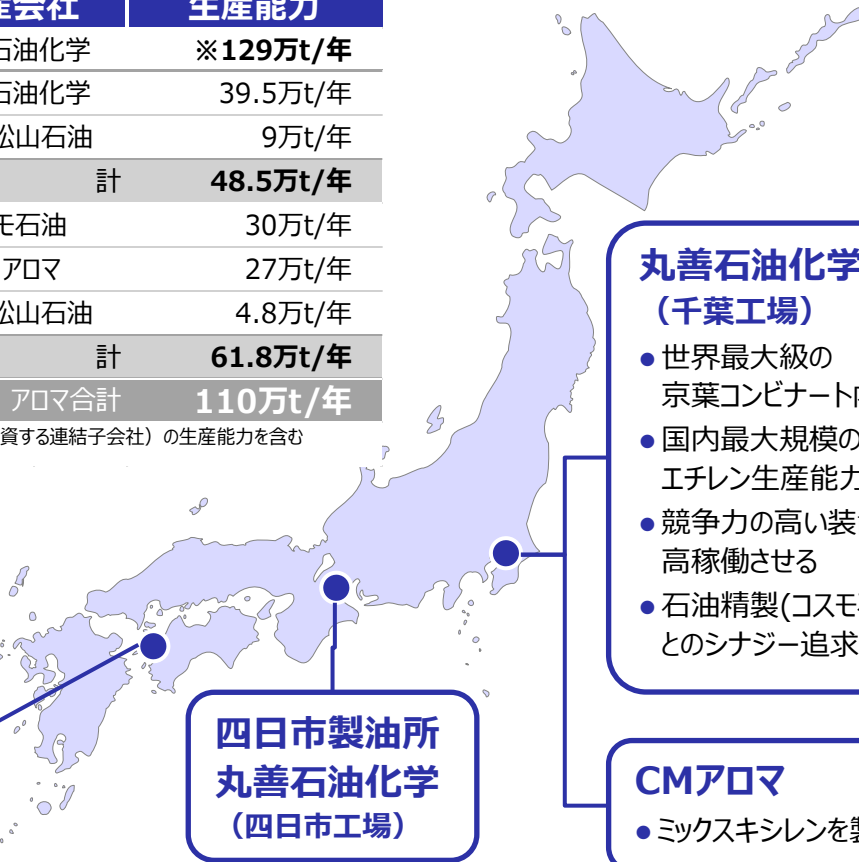
- 首都圏近接の京葉コンビナート立地と国内最大規模のエチレン生産能力を基盤としたコスト競争力
- 半導体材料であるフォトレジスト用樹脂で世界的に高いシェアを持ち、売り上げを拡大

当社グループの生産体制・特徴

(2026年3月31日時点)

		生産会社	生産能力
オレフィン系	エチレン	丸善石油化学	※129万t/年
アロマ系	ベンゼン	丸善石油化学	39.5万t/年
		コスモ松山石油	9万t/年
		計	48.5万t/年
	ミックス キシレン	コスモ石油	30万t/年
		CMアロマ	27万t/年
		コスモ松山石油	4.8万t/年
		計	61.8万t/年
アロマ合計		110万t/年	

※京葉エチレン（丸善石油化学が55%を出資する連結子会社）の生産能力を含む



丸善石油化学 (千葉工場)

- 世界最大級の京葉コンビナート内に立地
- 国内最大規模のエチレン生産能力
- 競争力の高い装置を高稼働させる
- 石油精製(コスモ石油)とのシナジー追求

CMアロマ

- ミックスキシレンを製造

半導体向けフォトレジスト用樹脂の事業拡大

丸善石油化学 シェア

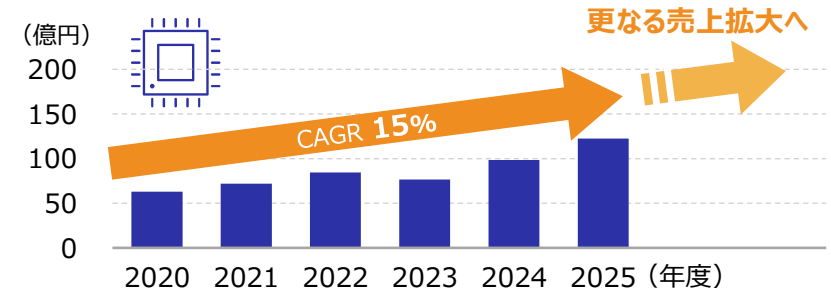


付加価値

高

- ArF製造装置の能力増強、KrF製造装置の能力増強
- 将来的な高付加価値製品の強化を見据え、次世代EUV向けポリマーの試作品製造装置を新設(2026年度中の完成予定)

半導体向けフォトレジスト用樹脂の売上推移



50年以上のUAEとの信頼関係をベースとした高効率な石油開発

- UAE建国以前から自社操業による原油開発を継続
- 50年の安定生産を基盤としたアブダビとの信頼関係をベースに、低リスク・低コスト開発を実現

コスモエネルギーグループの石油開発部門

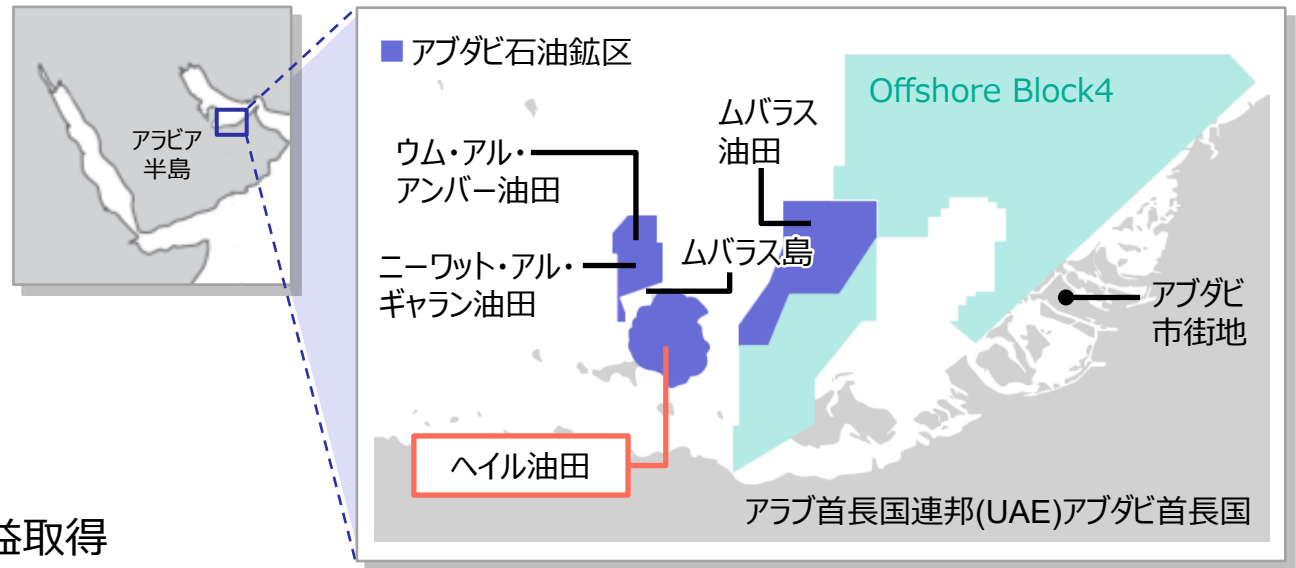
	アブダビ 石油	カタール 石油開発	合同石油 開発	
所在国	 (UAE)	 (カタール)	 (UAE)	 (カタール)
当社保有 割合	64.4%	100%	50%	
設立年	1968	1997	1970	

コスモのUAEにおける原油開発の歴史



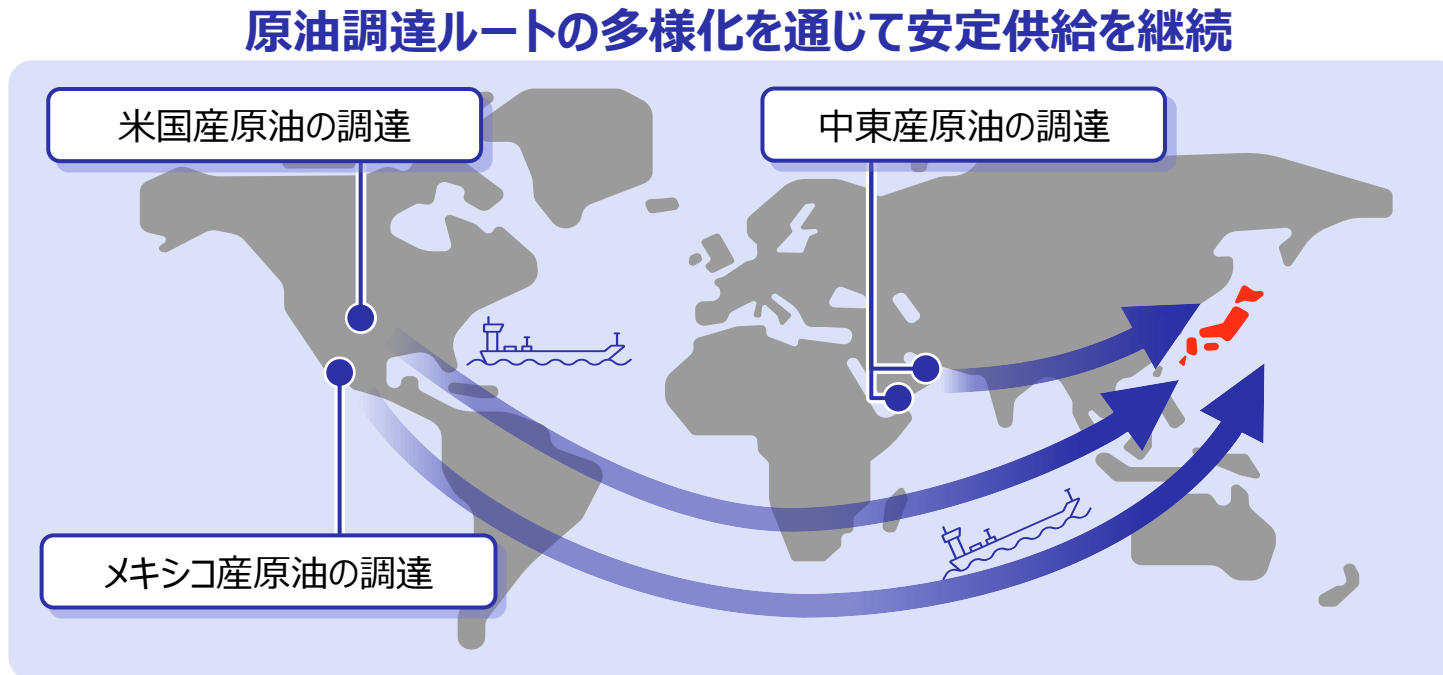
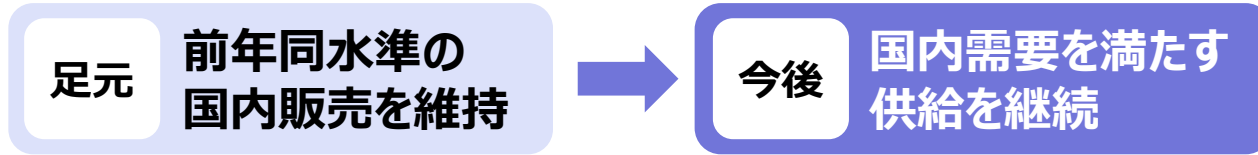
- 1967年 ムバラス油田権益取得
- 1971年 アラブ首長国連邦建国
- 2012年 既存3油田の新利権協定 発効、ヘイル鉱区獲得
- 2017年 ヘイル油田生産開始
- 2021年 Offshore Block 4 探鉱鉱区獲得

コスモの原油開発鉱区



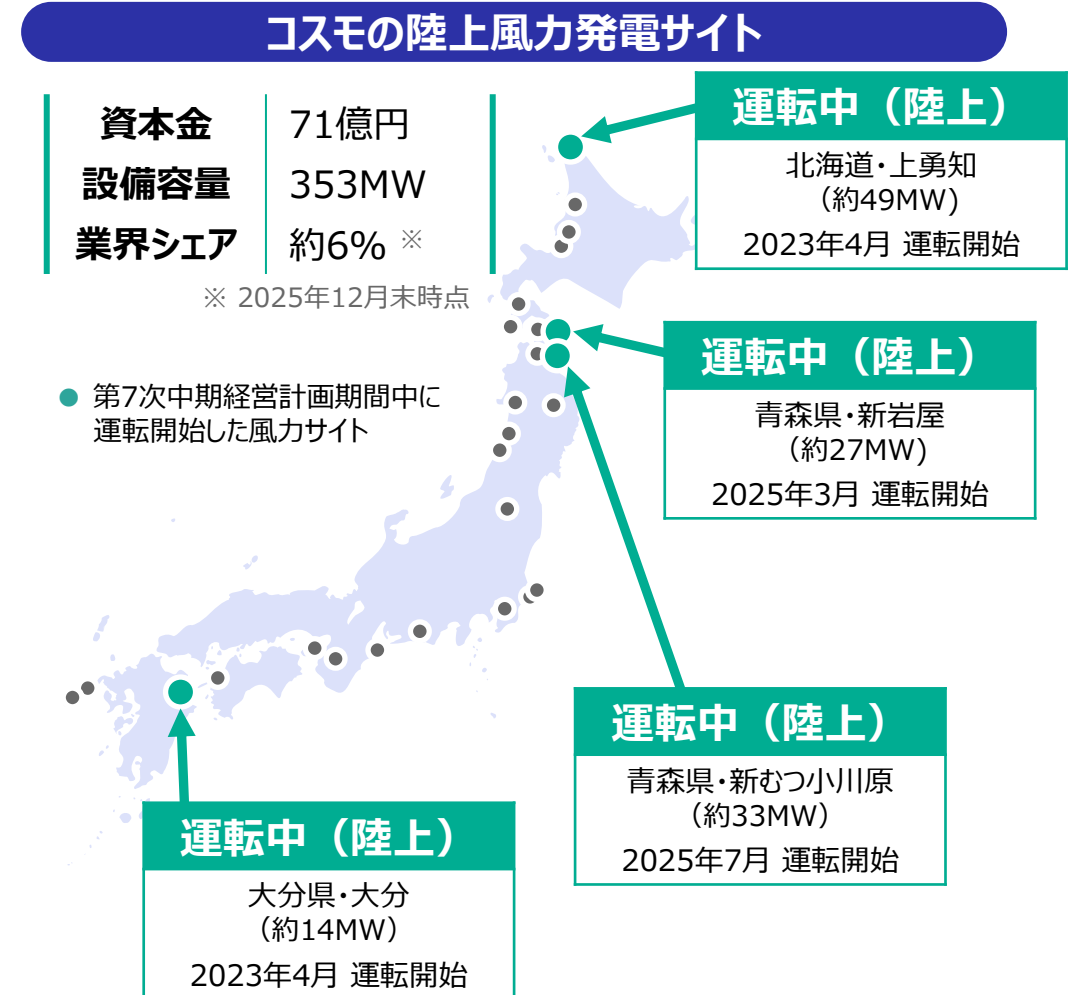
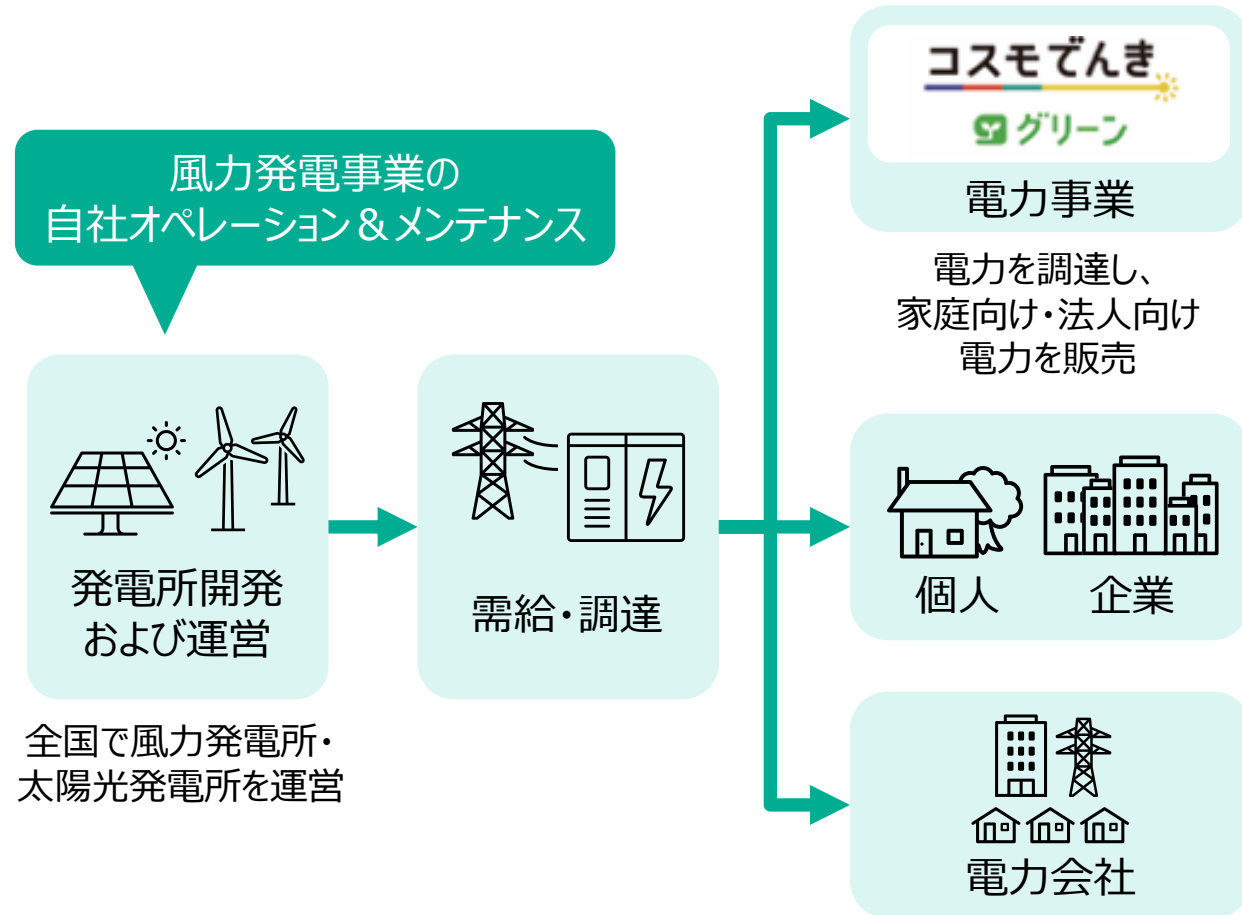
中東情勢が緊迫化する中でも国内供給を確保

- 原油の調達先を多角化し、国内供給に必要な量を確保。十分な量のガソリンやナフサなど石油製品を供給
- 産油国との信頼関係をベースとした連携で石油開発の通常操業に向けた取り組みを進める



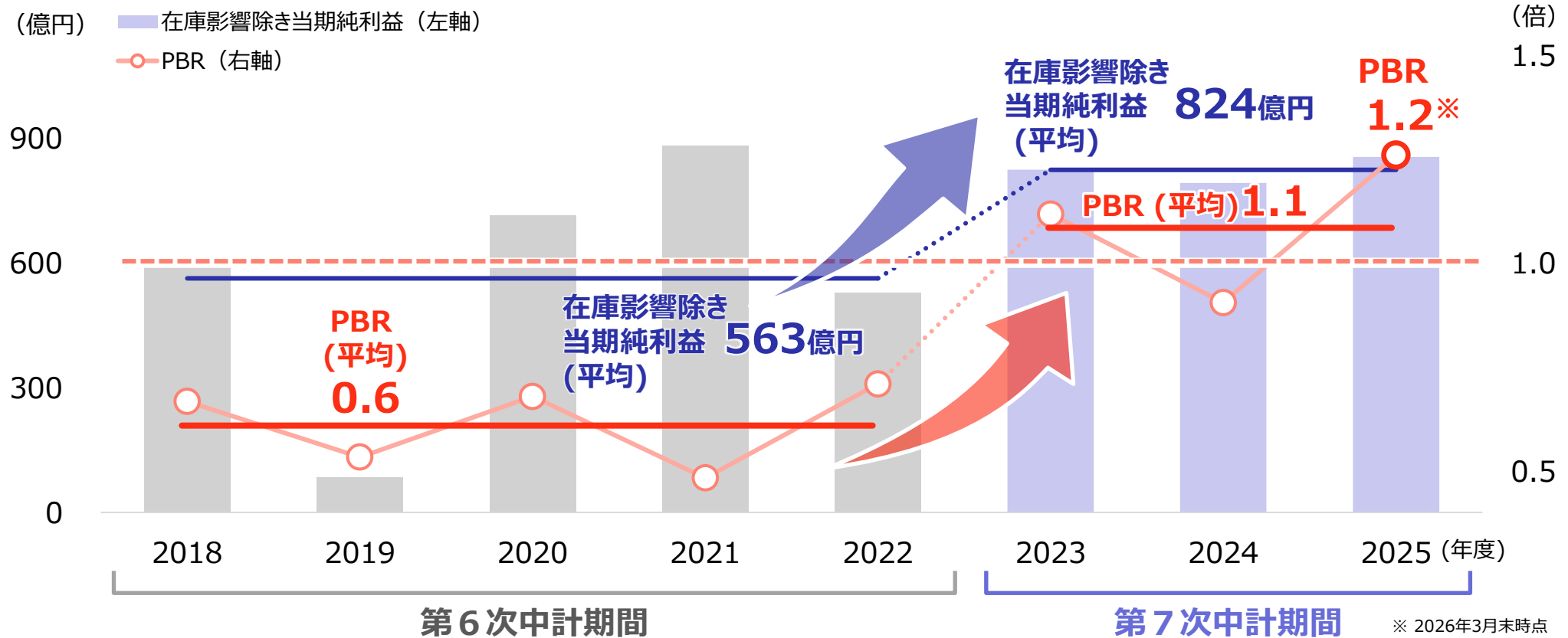
風力発電で3位の規模、電力サプライチェーン全体を手掛ける

- 陸上風力発電では国内第3位のシェアを誇る
- 発電から家庭向け・法人向けの電力販売までサプライチェーン全体を手掛ける



前中計で収益力と資本効率の向上を実現、下限配当も引き上げ

- 資本政策で掲げた株主還元、資本効率、財務健全性目標すべてを達成
- PBR1倍を超え、企業価値向上を実現



3力年の
総還元額

1,476億円
(当初計画1,080億円)

1株あたり
配当

165円
(当初計画100円以上)

① コスモエネルギーグループについて

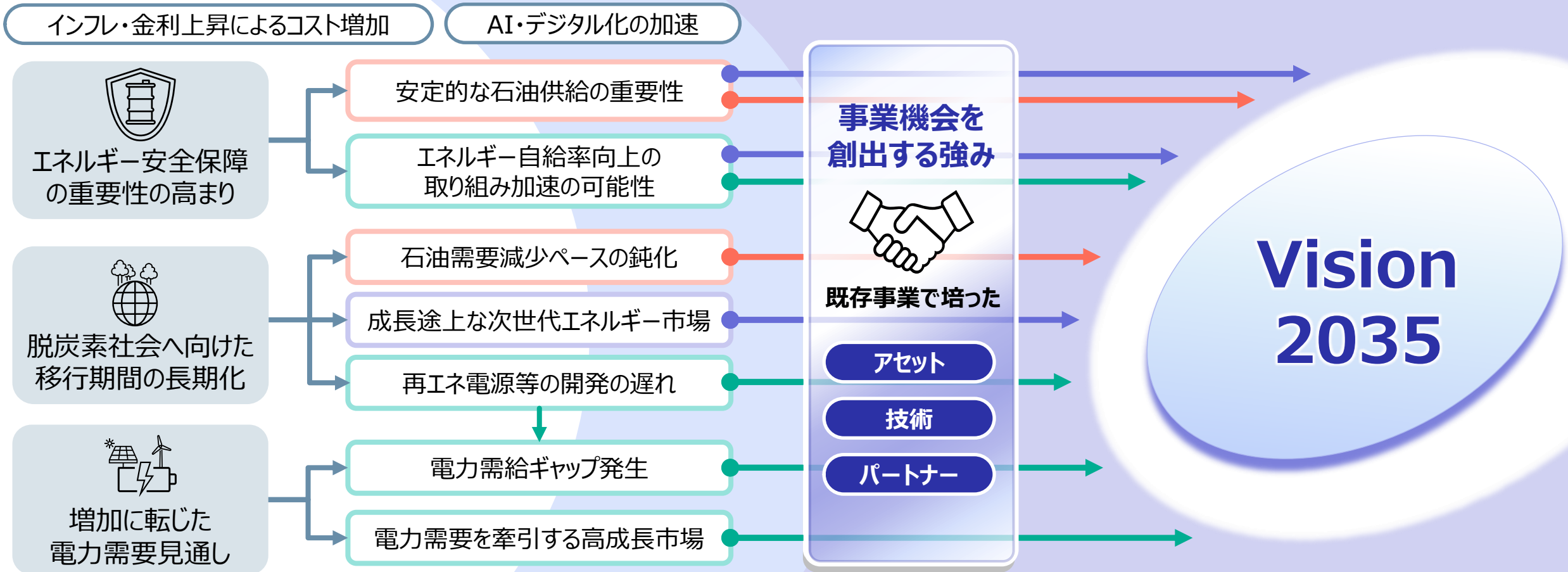
② 中長期的な成長戦略

質疑応答

外部環境の変化を踏まえて2035年のありたい姿を策定

- 外部環境の変化を事業戦略に反映させた長期ビジョンである「Vision2035」を策定

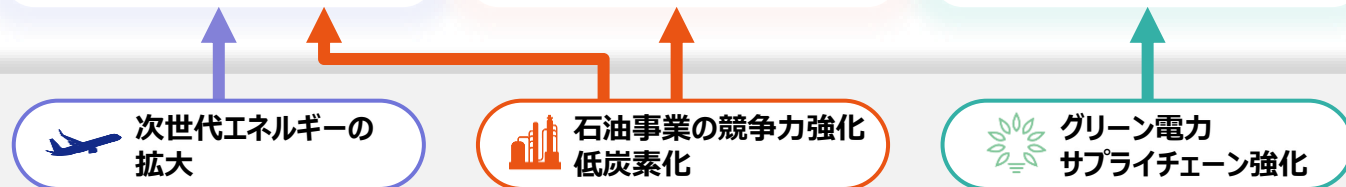
外部環境変化



長期ビジョン「Vision 2035」

- 第7次中計で掲げたVision 2030の方向性を維持しながら、環境変化に対応しアップデート
- 経常利益2,500億円、ROE15%以上を目指す

未来を変えるエネルギー、社会を支えるエネルギー、
新たな価値を創造する。



Vision 2030



石油と次世代エネルギーの
取り組み**一体化**



石油開発を軸とした
資源開発の拡大



安定的な電力供給に向けて
電源構成を再構築



技術力を活かした
NEXTグロース挑戦

2035年度

Vision 2035 経営目標

収益（在庫影響除き）

経常利益 2,500億円

当期純利益 1,250億円

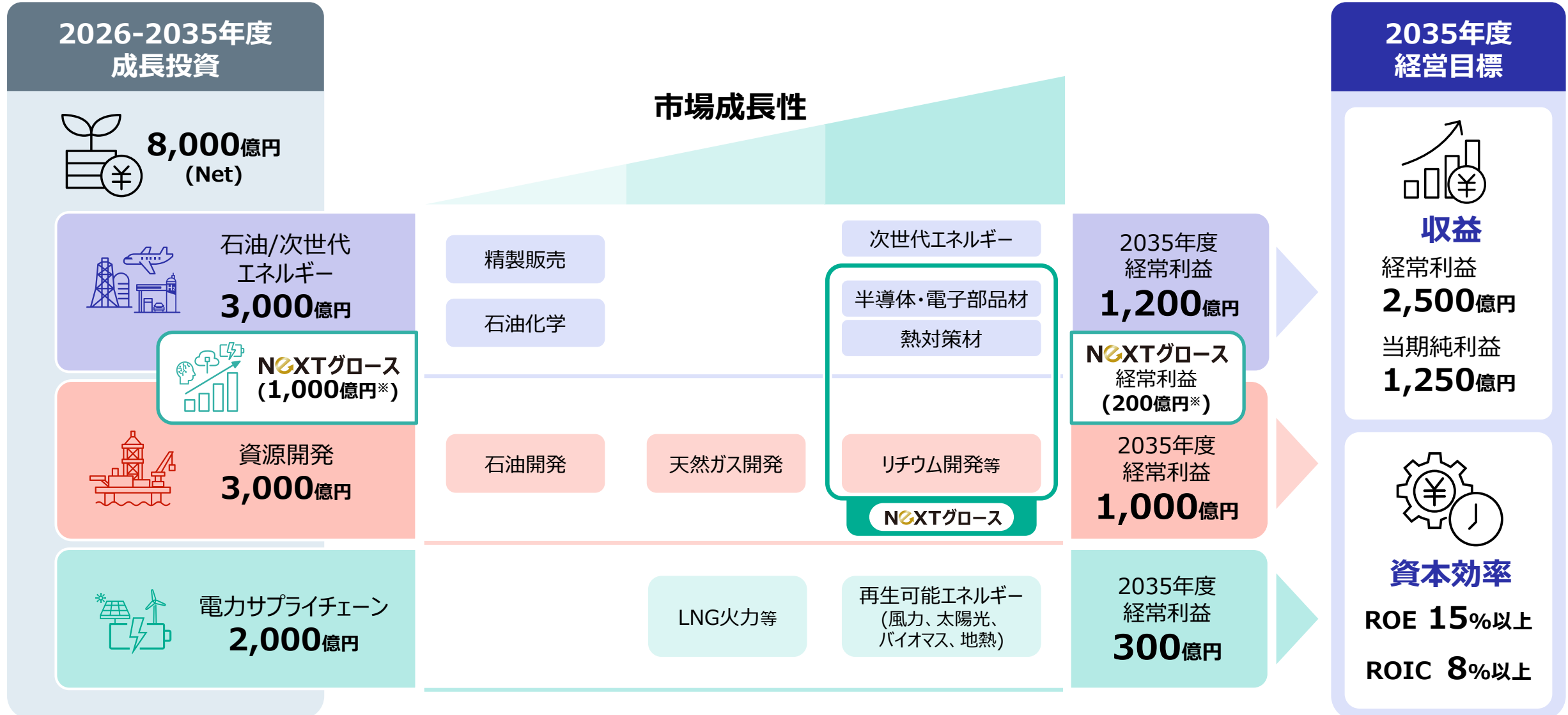
資本効率

ROE 15% 以上

ROIC 8% 以上

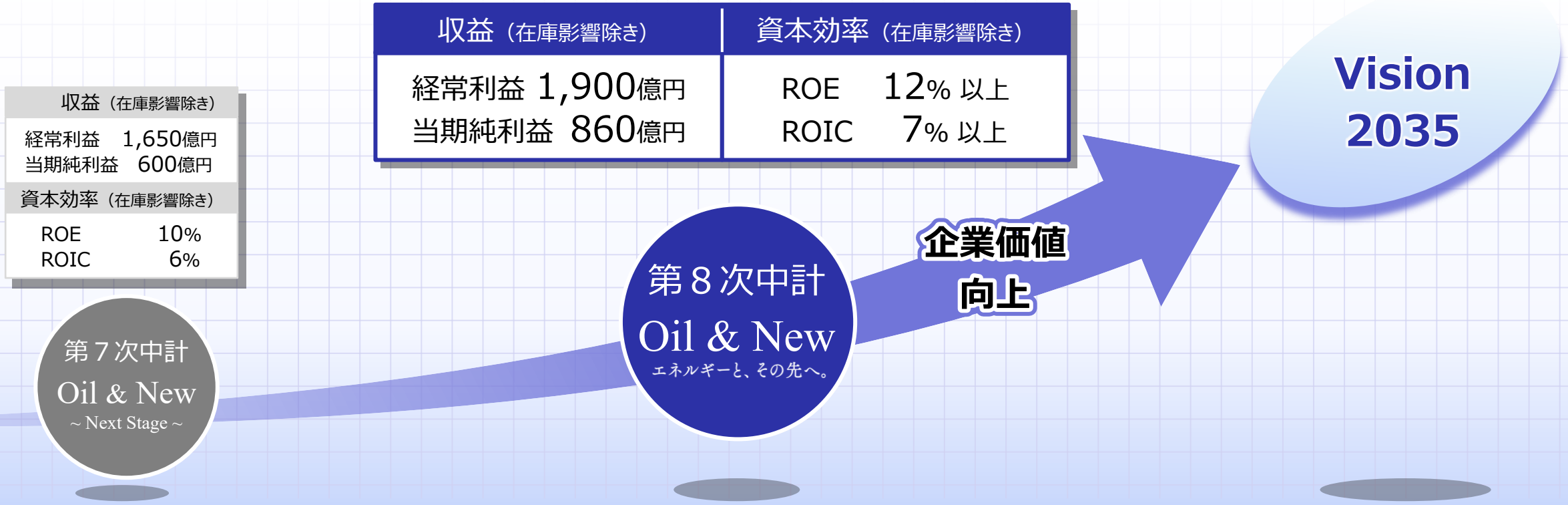
長期ビジョン「Vision 2035」

- 10年で8,000億円の投資を実行し、収益を拡大



第8次連結中期経営計画（2026～2028年度）

- 「Vision 2035」実現に向けた最初の3年間と位置付け
- 経常利益1,900億円、ROE12%以上の達成を目指す



第8次中期経営計画の基本方針

- 収益力最大化
- 成長機会の追求
- 生産性向上
- 三位一体の資本政策

第8次中計の基本方針

- 「収益力最大化」「成長機会の追求」「生産性向上」「三位一体の資本政策」を基本方針
- 事業・経営基盤・資本政策を一体で強化し、持続的な企業価値向上を実現
- 生産性向上とAI・デジタルの徹底活用により経営体質を強化



収益力最大化

- 石油精製販売事業における効率性・安全性の徹底追求を通じた安定供給、UAEでのコスト競争力の高い原油生産の早期拡大により収益力を最大化。



成長機会の追求

- 創出したキャッシュを原資に、既存事業を含む成長領域への投資を強化。
- 戦略投資枠を設定し、有望な投資機会を機動的かつ積極的に取り込み。



生産性向上

- AI・デジタルへの積極的な投資と徹底活用、人材高度化、意識・行動変革を通じて生産性向上を加速。
- グループの収益力と価値創出力を持続的に強化し競争力ある経営基盤を構築。



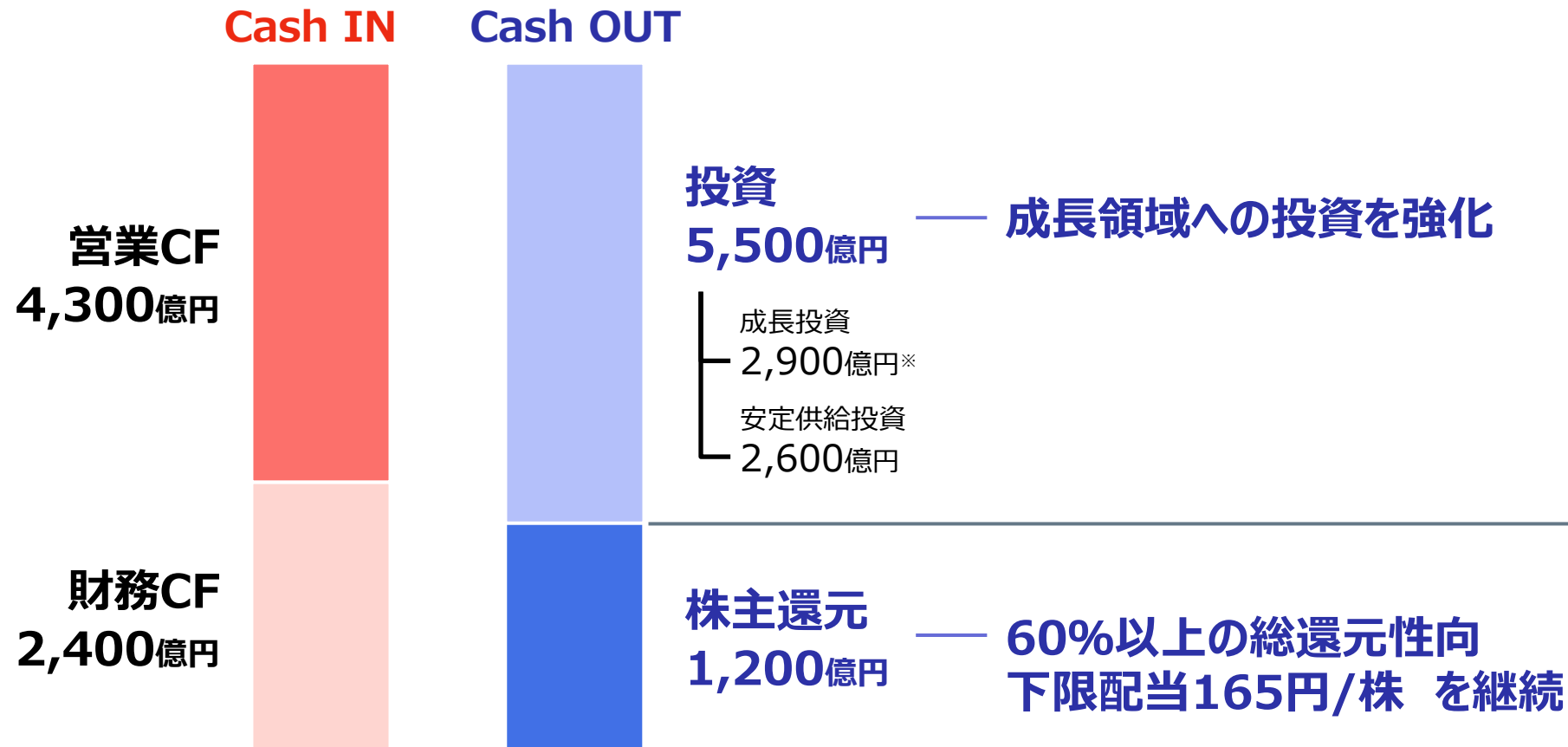
三位一体の資本政策

- 第7次中計で掲げた「三位一体の資本政策」を第8次中計でも堅持。
- 株主還元、財務健全性、資本効率をバランスよく高め企業価値を向上。

キャッシュフロー

- 稼ぐ力を原資に、積極的な成長投資と株主還元を両立

“積極的な成長投資”と“株主還元”を実施。



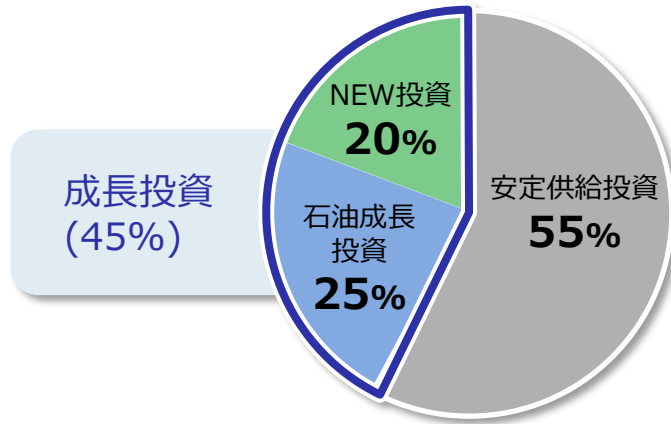
財務健全性の確保

ネットD/Eレシオ1.0倍

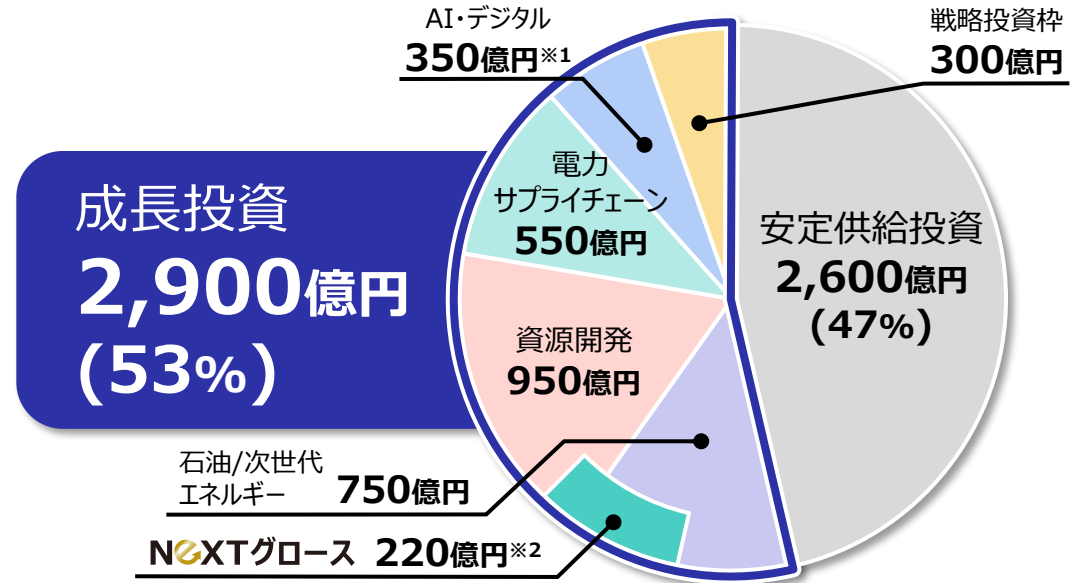
投資計画と成長投資

- 既存事業を含む成長領域への投資を強化、3年間で2,900億円の成長投資を実行

第7次中計



第8次中計 **5,500億円**



石油/次世代エネルギー

750億円

- SAF供給拡大
- 岩谷産業との水素事業の具体化



NEXTグロース

- フォトレジスト用樹脂拡大
- 放熱材拡大



資源開発

950億円

- ムバラス/ハイル油田増産策
- Offshore Block 4 探鉱



NEXTグロース

- リチウム開発調査



電力サプライチェーン

550億円

- 陸上風力/蓄電池拡大
- その他電源開発



AI・デジタル

350億円

- 製油所デジタルプラント化加速
- バックオフィス領域のAI徹底活用



戦略投資枠

300億円

- 新規に創出される投資機会を積極的かつ柔軟に取り込み (M&A含む)

配当

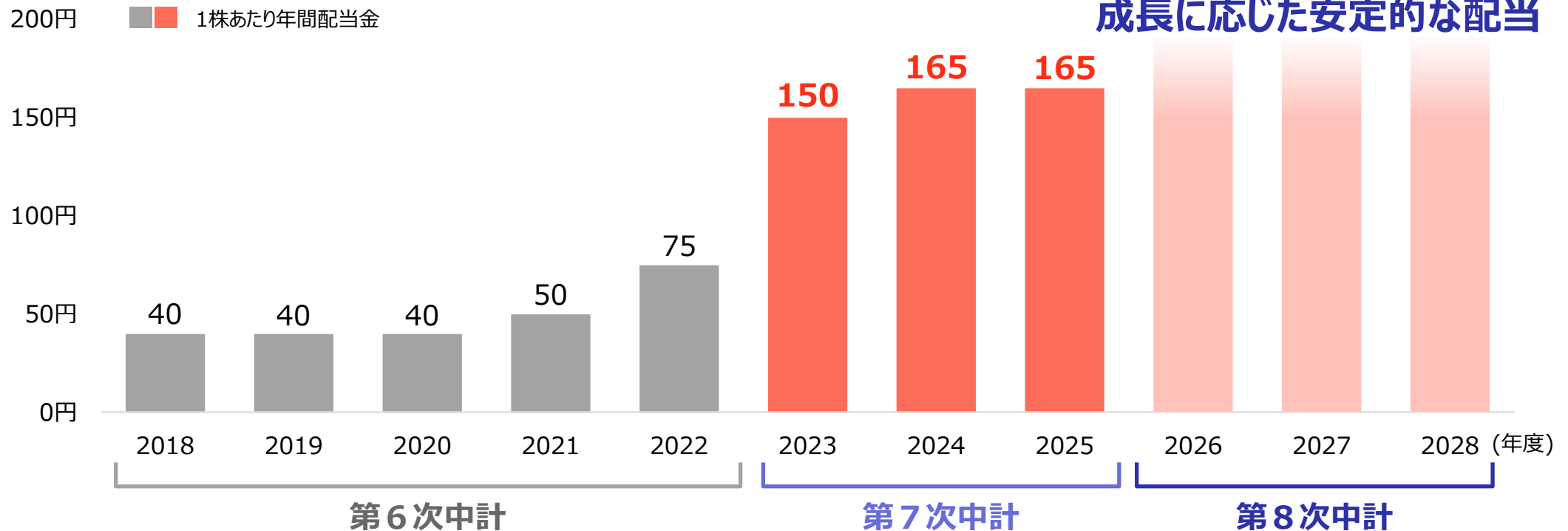
- 3カ年累計で60%以上の総還元性向
- 配当は165円/株を下限とし、成長に応じた還元を実現していく

中計期間（2026-28年度） 配当（予定）

165円 (中間配当 75円 / 期末配当 90円)

当社株式の配当利回り

約 **4%**



質疑応答

設備や操業の様子を 約6分の動画でご紹介しています
QRコードからぜひご視聴ください

